

台本トラック3：2人だけの秘密

「全部脱がせても、良い？」

「僕しか、見ていませんから」

「すべすべしたその肌を、もっと味わいたいんです」

「……そんな顔されたら、脱がせるしかないでしょう？」

(布の擦れる音)

(ベッドの軋む音)

「今から、ここに入るんですよ？ 僕のモノが」

(グチュグチュ音)

「じゃあ、入れますね？」

「……っ……きつい……痛くはありませんか？」

(グチュグチュ音)

「はぁ……ん……でも、よく濡れていて、締めも良い」

「舌、出してください」

「……うん。いい子ですね」

「ん……う……ちゅ……んんっ……ちゅう……ちゅっ……」

「ねえ……」

「耳、舐められるの、好き……？」

「反応が、良いから……」

「好きかなって」

「んっ……ちゅっ……はぁ……ちゅっ……ちゅっ……」

「ピチャ……ピチャ……」

「ちゅ……ピチャ……んっ……」

「はぁ……」

「すご……キュウウってなる……」

「気持ち良いですね？」

「もっと、してあげます」

「ふう……ん……っ……ちゅっ……ピチャピチャ……」

「はぁ……はぁ……ピチャ……んっ……ちゅ……」

「可愛い声……」

「もっと、聞かせて……」

「一緒に、乳首も……」

「ちゅ……ちゅっ……」

「凄く勃ってる……」

「コリコリって、硬くなって……」

「ああ……もっと……」

「もっと、奥まで入れて良いですか……？」

(布の擦れる音)

(ベッドの軋む音)

「奥までトロトロ……」

「分かりますか？」

「奥まで当たっているの」

「んん……」

「ここ、ですか？」

「一番気持ち良いところ」

「擦るのと……」

「突くのと……」

「どちらが良いです？」

「ふふっ……」

「分かりました」

「じゃあ、いっぱい僕ので擦りましょうね」

「ん……」

「音、聞こえますよね？」

「繋がっているところから」

「グチュグチュ……って……」

「どうして、首を振るの？」

「……恥ずかしい？」

「僕は、嬉しいですけどね」

「感じてくれているって、ことでしょう？」

「……貴女が、もっと欲しい」

「何も考えられなくなるくらいに」

「壊してしまいたい」

「んっ……んん……ちゅう……」

「……愛していますよ」

「普段の貴女も」

「僕の腕の中で、喘いでいる貴女も」

「どちらも、愛おしい」

「僕の方を、見て？」

「貴女の、よがる顔が見たい」

「僕だけが見られる顔……」

「離さない……」

「ちゅ……ちゅっちゅっ……」

「もっと、気持ちよくしてあげる」

「中に入れながら、クリも弄って」

「乳首もコリコリって……」

(布の擦れる音)

「腰が、浮いていますよ？」

「ホラ、貴女のもう、クリがヌルヌルになっている……」

「クリもコリコリしてますよ？」

「ふふっ……」

「言葉にならないくらい、気持ち良いの？」

「それなら、イクまで擦ってあげる」

「このままクリと……」

「中の気持ち良いところね？」

「グリグリって一緒に擦ったら……」

「すぐにイっちゃうかな？」

「イク時は、ちゃんと教えてくださいね？」

「イっちゃう……って」

「キュウキュウ締まる……」

「……気持ち良いね」

「そろそろ、我慢出来なくないませんか？」

「それなら、僕の腕を掴んで」

「イク時は、言うんですよ……？」

「ええ、そうです」

「さあ……」

「よく、出来ましたね」

「ご褒美に、奥まで……！」

(ベッドの軋む音)

(布の擦れる音)

「ああ……イっちゃいましたね」

「その表情……」

「ゾクゾクします」

「このまま、動かしますよ？」

「良いですよ？」

(ベッドの軋む音)

(布の擦れる音)

「グチュグチュで……気持ち良い……」

「ずっと中に入れていたいの……」

「我慢も難しいなんて」

「いけない身体だ」

「んん……そろそろ、出しますね」

「なにか……？ 勿論、中に、ですよ？」

「私の精液、受け止めてくださいね？」

「心配しないで？ 責任のとれない男じゃありませんよ？」

「貴女の全てが、僕は欲しいんです」

「この方がきっと、貴女も気持ちいいから」

「……ね？」

「んう……ちゅう……ちゅっ……ちゅっちゅっ……ん……」

「はぁ……」

「はぁ……はぁ……出しますよ…っ……！」

(肌のぶつかる音。湿った感じで)

「ああ……っ……はぁはぁ……はぁ…」

「ちゅ……」

「……二人だけの秘密が……出来ましたね？」